

新郷啓子 著

『抵抗の轍 アフリカ最後の植民地、西サハラ』 (インパクト出版会)
出版記念トーク

自由と尊厳を求めて サハラーウィ40余年の闘い ～著者・新郷啓子さんに聞く～



2020. 1. 9 (木)

時間

19:00～20:30(開場18:30)

場所

文京シビックセンター 3F 会議室1+2
(東京都文京区春日1-16-21)

参加料

500円

スピーカー

新郷 啓子(著者)

鵜飼 哲(一橋大学特任教授／フランス文学・思想)

岡 真理(京都大学教授／アラブ文学)

アクセス

- 東京メトロ後楽園駅・丸ノ内線(4a・5番出口)
南北線(5番出口) 徒歩1分
- 都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線(文京シビックセンター
連絡口) 徒歩1分
- JR総武線水道橋駅(東口) 徒歩9分

参加登録

以下のサイトから参加をご登録下さい。
<https://forms.gle/nN8oun73U2bgSYs57>



主催／問合せ: 西サハラ友の会 (info@fwsjp.org)
後援: NPO法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

1993年に『蜃気楼の共和国？ 西サハラ独立への歩み』（現代企画室）を世に出して26年。新郷啓子さんは、ヨーロッパを拠点に、40年近くにわたり、自由と尊厳を求めて闘うサハラウィ（西サハラの人びと）に寄り添いながら、彼らの解放闘争の支援活動が続けてきました。日本で西サハラ問題を熟知する第一人者です。

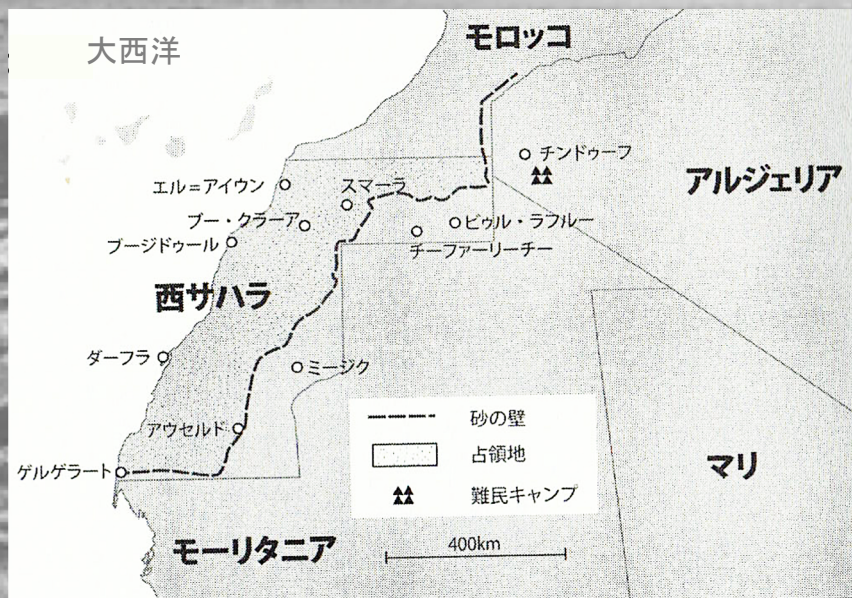
その新郷さんの待望の新刊『抵抗の轍 アフリカ最後の植民地、西サハラ』（インパクト出版会）が11月に出版されました。出版を記念して、来日する新郷さんからお話を聞きます。また、新郷さんの長年の友人である鶴飼哲さんと岡真理さんを交え、西サハラを知る意味、今行動する意義を考えます。

西サハラとは？

北西アフリカにある旧スペイン植民地。1975年、独立過程で隣国のモロッコに侵攻され、領土の大半が占領下に。現地では逮捕、拷問、投獄など深刻な人権侵害が起きています。侵攻を逃れたサハラウィはポリサリオ戦線に結集し、アルジェリアで難民キャンプを建設して暮らしています。1976年、「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言しました。

1991年、ポリサリオ戦線とモロッコは停戦と住民投票の実施に合意。国連は住民投票派遣団を設置しましたが、モロッコやフランスの妨害により、まだ実施できていません。

西サハラはリン鉱石の産地であり、豊かな漁場があります。モロッコはそれらを自国産として輸出しており、西サハラで獲れたタコはモロッコ産として日本にも来ています。一方、サハラウィは占領下で脇に追いやられ、就職等で差別的待遇を受け、発展から取り残されています。



地図: 岩崎有一氏 作成

西サハラ友の会

2019年6月に市民が設立した会で、西サハラの人びとが平和のうちに暮らせることを願い、国際社会が約束した非植民地化のプロセスが前に進むよう、各方面に働きかけることを目的としています。世界中に西サハラの人びとを支援する活動があり、それらと連携し、西サハラ友の輪を広げていきたいと考えています。

ウェブサイトは、<https://fwsjp.org/>